

リフレッシュ キャンプ

■ 事業のねらい

自然の中での活動をとおして、仲間の大切さや物事を達成する喜びを感じることによって、自分が変わるためのきっかけづくりとする。



- 実施日 平成 24 年 8 月 27 日(月)～29 日(水) 2泊3日
- 参加対象 心に悩みを抱えている小学3年生～高校生及びその指導者 20名
- 参加実績 参加者：18名
 小4＝1名、中1＝1名、中2＝6名、中3＝9名
 高卒1年目＝1名
 男子＝9名、女子＝9名、指導者5名
- 備考 運営協力者：施設ボランティア3名
 活動場所：ネイバル森及び大沼
 協力：北海道フリースクール等ネットワーク
 苫小牧市教育委員会適応指導学級「あおば学級」

1 事業実施の背景

文部科学省では、不登校児童生徒の定義を年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある者」としている。平成23年度、北海道の不登校児童生徒数は、4,001人、高等学校では833人となっており、その数値は依然として高く、看過できない問題となっており、教育上大きな課題となっている。

不登校対応として「適応指導教室」の整備充実やフリースクールへの支援、さらには、児童生徒の実態に応じた、効果的な活動プログラムの開発が求められている。そのため、北海道フリースクール等ネットワークや苫小牧市適応指導学級との連携を図り、自然体験活動を主体に自律心を養い、自主性、協調性など「生きる力」を培う取組を行うものである。

2 プログラムデザイン

受付 8月27日(月) 14:30 解散 8月29日(水) 16:00

27日(月)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
	バス移動 (札幌→ネイバル森) ※弁当持参											開 会 式	仲 間 作 り ゲ ー ム	自 転 車 の チ ェ ッ ク 等	夕 食	ハ イ キ ン グ ナ イ ト	入 浴	テ ィ ン グ 事 前 ミ ー	就 寝 準 備
28日(火)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
		起 床	朝 食	活 動 準 備	チャレンジサイクリング (駒ヶ岳一周) ネイバル森→砂原→鹿部 (ひょうたん沼まで) 約40km			ひ ょう た ん 沼 昼 食 弁 当	チャレンジサイクリング (駒ヶ岳一周) 鹿部→大沼公園→ネイバル森 約16km				夕 食	自 由 時 間	お 疲 れ パ ー テ ィ ー	ふ り か え り	入 浴	就 寝 準 備	就 寝
29日(水)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
		起 床	朝 食	清 掃 ・ 活 動 準 備	部 屋 点 検	移 動	カ ヌ ー 体 験 (大沼)	移 動	ふ り か え り	バス移動 (ネイバル森→札幌へ) ※弁当配付			解散						

■ アクティビティについて



■ 意図

- プログラム全体では Active、Break、Change の「A、B、C」を合い言葉に事業を展開した。
- 自然の中での活動を通して、仲間の大切さや物事を達成する喜びを感じることで、自分が変わるようにプログラムを構成した。
- 自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し行動することで「生きる力」を培うように、自分で動かなければ解決できない場面を多く用意した。
- 3日間の活動をとおして、「自分と仲間」「本当の自分」について見つめ、他人を思いやる心や仲間と協力することの大切さについて気付く取組にした。

■ 留意事項

- 野外活動が中心で、危険を伴うプログラムが多いことから、参加者が安全に活動できるよう危機管理の徹底を図った。
- 都市部からの参加者がほとんどのため、自然に関わる直接体験を重視し、自然への興味関心、充実感、感性等を生かしたプログラム構成にした。

3 活動の様子



4 事業評価



5 まとめ



■ 当日の様子

初日は、職員が参加者の心と体の緊張ほぐすために、アイスブレイクを実施。その後、明日の「チャレンジサイクリング」に向けて、参加者はそれぞれ自転車のチェックを行い、夕食後は、夜の森の中に身を置き、音や匂い、足の感覚などの五感で自然を感じると「ナイトハイク」を行った。就寝前には、翌日の「チャレンジサイクリング」に向けた事前ミーティングを行い、全行程を確認し、留意すべき事項や安全面の最終確認をした。

二日目は、「駒ヶ岳一周チャレンジサイクリング」を実施。班毎にかたまってネイパル森をスタート。第一の休憩ポイントである柴田牧場までの約12キロメートルを走った。なだらかな下り坂を風切りながら、どの参加者も元気にペダルをこいだ。道の駅「つど〜る・プラザ・さわら」で休憩をとった。ここからは、少しずつ上りこう配となったが、互いに声をかけ合い励ましあいながら、昼休みの鹿部町「ひょうたん沼」に無事到着。休憩後、再び元気を取り戻した参加者は、次の目的地を目指して走り始めた。折からの暑さと上りが続く勾配に、さすがに疲労の色が見え始め、給水ポイントでは多くの参加者がのどの渇きをいやした。約10キロメートルの上りと途中の山道をゆっくりゆっくりと、ペダルに力を込めて進んだ。最終休憩ポイントの東大沼キャンプ場でしっかりと休憩をとり、ラスト6.6キロメートルを皆で走った。残念ながら、途中、体調不良で休む参加者も出てしまったが、最後は、ほぼ全員でネイパル森のゴールを目指し、全行程56キロメートルを走破した。

最終日は、カヌー体験に挑戦。2〜3人一組でカヌーに乗り、穏やかな大沼にこぎ出した。操作に悪戦苦闘しながらも、大沼の自然を直に感じとりながら、楽しい一時を過ごした。その後、ネイパル森に戻り、3日間で感じたり、思ったりしたことについて、ふりかえりを行った。閉会式では、運営者やボランティアからねぎらいと励ましの言葉があり、参加者は思いを新たにしていた。

■ 参加者の声

- サイクリング(56km)は無理と思っていたが、完走できてとてもうれしかった。
- このキャンプで自分に自信がついたし、友達もたくさんできてすごく良かった。
- 知らない人と話ができてよかった。これからも、嫌なことがあるかもしれないが、それを乗り越えていける自分になりたい。

■ 評価方法・重点

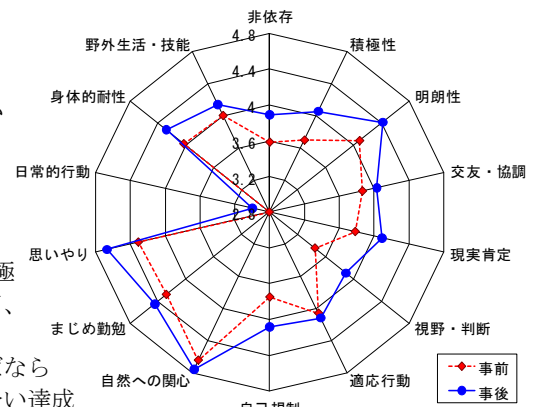
「IKR調査」を実施。「自然への関心」「非依存」「思いやり」「積極性」に重点をおいた。

■ 参加者の変容【IKR調査結果】

「自然への関心」では事前、事後とも大きな数値であった。また、事後調査から、「積極性」「視野・判断」「思いやり」が0.4ポイント、「非依存」が0.3ポイントの上昇が見られた。

■ 結果の分析・考察

事前と事後の調査を比較すると、「積極性」「視野・判断」「思いやり」において、変化が見られた理由は、二日目の体験活動から、自分自身で乗り越えなければならぬ状況となったこと、互いに励まし合い達成できた体験となったことが大きな要因と考えられる。



■ 成果

- 事業企画段階から、フリースクール等の関係者の意向として、困難なことを乗り越える体験活動を実現してほしいとの声があり、二日目に駒ヶ岳一周のチャレンジサイクリングを取り入れた。このプログラムにより、参加者に積極性を促し、大きな達成感と自信をもたらすことができた。
- チームやグループでの各種の体験活動によって、自分だけが頑張るのではなく、互いに協力し合って成し遂げる喜びをもたらし、他者を認める心や思いやりの心を育むことができた。

■ 課題・今後の方向性

- 昨年度から、フリースクールと適応指導教室の参加となり、参加者の層に広がりが見られ、今までと違う人間関係を構築することができた。今後も引き続き、広域的な形で団体との連携を図った事業を行っていきたい。
- 各種の体験活動を終えた後の時間の確保や取組内容に課題が残った。今後は意図的にゆとりのある時間を設定し、参加者の成長につながるプログラム構成となるよう考慮したい。